



宮原良治司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行 人
カトリック福岡司教区
編集人 下町豊重
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部60円

12月の意向

【世界共通】信仰を伝える人たちが訪れる人のため
【日本の教会】クリスマスに教会を
【教皇様の意向のために祈りましょう】

神のいつくしみをせらるるに生き、広めよう
司教着座10年目の「教区の口」

11月23日(金・祝)、カテドラル大名町カトリック教会で「教区の日」2018(実行委員長 下町豊重神父)が開催された。「同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください」「フリリピの信徒への手紙2章2節)。開会の「教会の祈り・昼の祈り」の中で朗読されたこのみ言葉を思いめぐらし、当日集った約700人は交わりの時を過ごした。



宮原司教の主司式で教区の日を祝った

午前10時15分、カテドラルの聖堂に集った参加者は「教会の祈り・昼の祈り」を唱えた。その後、実行委員長の下町神父が腹話術人形のシゲちゃんが登場し、開会の挨拶を述べた。「私たちは神さまの子ども、司教を中

宣教地召命促進の日 12月2日

「キリストを知らない人に救いの福音を伝えることは、キリスト者一人ひとりに課せられた使命であり、神からの呼びかけにこたえること(召命)です。それゆえ、宣教地である日本において、すべての信徒がその使命を果たせるよう、また宣教に従事する司祭・修道者がよりいっそう増えるよう祈ることは、とても大切なことです。

この日、わたしたちは、世界中の宣教地における召命促進のために祈り、犠牲をささげます。当日の献金はローマ教皇庁に集められ、全世界の宣教地の司祭養成のための援助金として送られます。』(『カトリック教会情報ハンドブック2018』より)



「宣教地である日本において、すべての信徒がその使命を果たせるよう…」とあるように、教皇フランシスコも度々、すべての信者が宣教の使命を果たすよう呼びかけられます。クリスマスを迎えるこの季節、様々な関連行事などに知人・友人を誘ってみてはいかがでしょうか。本紙4面にも各種行事が紹介されています。

札幌教区としての北海道胆振東部地震被災への支援金のお礼と募集の終了について

カトリック札幌司教区は、北海道胆振東部地震被災への支援金が当初予定していた支援金額に達したので10月末で支援金の受付を終了した。通知文書内で札幌教区長の勝谷太治司教は「支援金を寄せてくださった皆様に感謝申し上げます。今後ともお祈りよろしくお願ひします」と述べている。

礼拝の歩みを感じる

「物理的・身体的な貧しさ」を助ける活動は大切だが、それが最終目的ではない。キリ

御国が来ますように

大人の部の第1講話は宮原良治司教による「着座10周年の振り返りと展望、教区創立100周年へ」。初めに着座からの10周年を振り返り、「私の至らなさに関わらず、支え続け、祈り協力し続けてくださった教区民の皆さまに感謝します」と述べた。

クリスマスを知る喜び

第2講話はS・フランコ神父(聖ザベリオ宣教会)による「ミサ・秘跡から見る神の大きないつくしみ」。

時の話題

間に住む民は光を見た 教誨師がみるクリスマス



子どもたちに祝福を与える宮原司教

私たちの歩みを感じる 講話の間には、熊本地区カトリック女性の会と美野島司牧センターの活動報告も行われ、ミサでは各小教区の報告書も奉納された。ミサの拝領後には大名町教会の英語ミサグループによる英語の聖歌と子どもたちの手話による聖歌「マラナタ」が捧げられるなど、教区民が一つとなって「私たちの歩み」を感謝するミサとなった。閉会時には、着座10周年を祝い、宮原司教に感謝の花束が贈呈された。

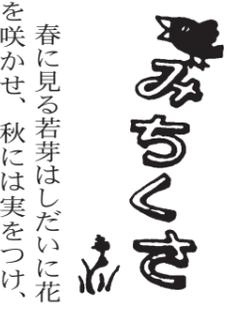
来年度の教区目標などを検討

11月6日(火)、2018年度第3回福岡教区司祭評議会が開催された。最初の議題は、来年度の教区目標について。生活聖化委員会(委員長 A・トゥルコ神父)と養成教化委員会(委員長 R・フリリピ二神父)が提案された「喜びに喜べ」(現代日本における聖性)が主な目標として承認された。これは、フランシスコ教皇の回勅の題名をそのまま採用したものだ。さらにそのテーマに基づき、上記両委員会からの諸提案が紹介された。また、北九州地区司祭集会から提案された司教、司祭、信徒の間で、「こころの声を聴く」という目標も教皇の回勅に沿ったものであり、サブテーマとして取り上げることが承認された。

2018年度 第3回司祭評議会

この方は何も悪い事はしていませんよ、最後に「イエスよ、あなたが御国に出でなくなる時は、私を思い出してください」と願いました。この人の願いに答えてイエスは、「はつきり言っておくが、あなたは今日私と一緒に楽園にいる」と言われました(ルカ23章41、43節)。

春に見る若芽はしだいに花を咲かせ、秋には実をつけ、やがて枯れて種子を地に落とす。春の若葉は鮮やかな緑からしだいにきれいな赤や黄色に変わり、やがては枝から離れてみごとなじゅうたんとなす。自然の繰り返しの営みは「誕生と死」「復活」を感じさせる▼人の営みも神から命の息を吹き入れられた時から繰り返しが行われてきた。自然の営みに比べ、人の営みには利害があり、感情がうごめき、知性と自由意志が行き交うために時々神のお考えとは異なる方へ向かってしまう。悪魔も巧みな方法で思わぬ方向へ誘い出し、罪を犯させ、神を悲しませてしまう。しかし、神のご計画は人の営みを包み込み、人のあるべき方向へ導き、幸せを与えるのである▼「神の子の誕生」。それは神のご計画の最たるものである。かつて、善いものとして命を与えられた人はある時から悪魔と手をつなぐようになり、神から離れて悪しき輩に変わってしまった。人は居ることを許された天国から追い出され、死と苦しみを味わうようになった。しかし、憐れみといつくしみに富む神は人を見捨てず、救い主を人に与え、再び神と永遠に居ることができるよう計画されたのである。その救い主は神の独り子である。彼は、人として生まれ、人の営みの中で生涯を送られた。彼はどのような人でも受け入れ、心身の汚れを清め、いずれば天国に帰れるようにしてくださった。彼は人のために死に、そして復活した。人は彼の生涯を思い出し、彼の誕生が自分の死と復活に深く関わっていることを知らねばならない。(S)



「福音宣教」の問診と実践 ②

イエスとの出会い

レナト・フィリッピニ神父
(聖ザベリオ宣教会・教区養成教化委員会担当)

「福音の喜びは、イエスに出会う人々の心と生活全体を満たします。」(『福音の喜び』1) 福音は「良い知らせ」です。良い知らせですから、自分自身も喜びのうちに受け取ったはず。その喜びを友だちにも味わって欲しくなります。それが宣教です。自分が受けた喜びが宣教の力になります。

【喜びは常にイエスと共に】福音の喜びの体験を思い出してみましょう。喜びの体験を自分でできる宣教のプロセスにする。

- * どんな時、キリスト者であることを意識していますか。
* 福音の体験：どんなものでしたか、具体的に記述してみましょう。
* 自分が一人の宣教者になることにためらいがありますか。それはどのようなためらいでしょうか。

【イエスとの人格的な出会い】「わたしはすべてのキリスト者に、どのような場や状況にあっても、今この瞬間、イエス・キリストとの人格的な出会いを新たにしようと呼びかけたいと思います」(同3)

- * 「人格」とは、それぞれの人が持つ「その人らしさ」。したがって、みんな違うということ。

イエスとの出会いを意識しましょう。

自分とイエスとのつながりはどんなものなのでしょうか。

- * 自分とイエスの関係。人間は完全ではない存在。イエスはこれを受け止めてくださる。
* イエスはどんな時にもゆるしてくださる。
* 失敗することを恐れるより、常にあゆみ続けること

「人をキリスト信者とするのは、倫理的な選択や高邁な思想ではなく、ある出来事との出会い、ある人格との出会いです。この出会いが、人生に新しい展望と決定的な方向付けを与えるからです。」(同7)

キリスト教は伝えるメッセージであるというより、元々キリストとの出会いという体験でした。それを追体験ができるようにメッセージになったのです。

実践のすすめ 「イエスとの出会い」の体験を分かち合ひましょう。例えば敬老の祝いに年配の方、または最近受洗した方に語っていただきましょう。



慰霊碑で祈りをささげる参加者

11月12日、14日、沖縄の戦跡と基地を見学しました。13人が参加しました。
車窓から眺める青い空と清ら(ちゅら)海。ガジュマルもデイゴも木々は巨大で、南の島に来たのだと実感しました。

す。しかし、沖縄の現代史は苦難に満ちたものでした。太平洋戦争末期に地上戦が繰り返され、多くの島民が犠牲となりました。今も残るガマ(自然洞窟)は追いつめられた人々が逃げ込んだ場所で、最後は自決を選びました。光の届かない洞窟に入ると、今にも人々の息づかいが聞こえてくるような臨場感でした。

基地ゲートの前では反対する人々が5000日余に及ぶ座り込みを続けています。皆さん懐っこい笑顔で、よく来たねと迎えられました。一方、ゲート内の工事現場では若い世代が働いています。県民を二分する基地の現実を眼前にして、日米安保条約を容認するなら、米軍基地は

教区正義と平和協議会 沖縄現地学習
沖繩、清ら(ちゅら)海と現実
福岡教区正義と平和協議会(担当 中村彰神父)が主催する沖縄現地学習が11月12日(月)〜14日(水)の日程で行われた。「見て、聞いて、知って、祈り、働こう」の呼びかけに13人が参加した。参加者の大神祥江(よしえ)さん(NPO美野島めぐみの家)に報告と感想を寄せていただいた。



辺野古での座り込みを体験した

を制限され、復帰後も在日米軍の70%がここに集中して配備されたままです。今、更なる訓練の時を迎えています。日米政府が、老朽化した普天間基地の辺野古への移設を決定し、工事が始まりました。



オープン・コレジオの参加者とコレジオ生

福岡コレジオ(カトリック長崎教会管区司祭志願院)では、10月27日(土)から28日(日)にかけて昨年に続きオープン・コレジオが開催された。今年は昨年の倍以上の12人の参加があり、中高生や大学生、社会人が集った。

日本全体で引受けるべきという思いを強くしました。山田圭吾氏(泡瀬教会)が福岡コレジオでオープン・コレジオそれぞれの神との出会いを語る

三日間の運転とガイドを、聖クララ修道院では宿泊と食事のお世話になりました。
める人、多くの人の死に直面して、召命を感じ、今年からその歩み始めた韓国からの留学生の金さんなど、それぞれの学生の体験は一同の心を動かした。この後、グループに分かれて、今回参加した動機、あるいは神との出会いを実感した体験などを熱心に分かち合った。参加者はこのような出会いが与えられたことに感謝し、今後も互いの絆を深め合うことを確認した。

福岡教区和田墓地 ミサと納骨式
11月11日(日)、福岡教区和田墓地(福岡市南区)にて死者の月のミサと納骨式が行われた。宮原良治司教が主司式をつとめ、約10人の司祭と200人の会衆と共にミサを捧げた。先日、帰天したイ・スンヒョン神父の友人の韓国人司祭や家族も集った。

この集いは、召命を考えている人をまず第一に対象としているが、同時にコレジオでの生活を広く知っていただく

福岡コレジオ(カトリック長崎教会管区司祭志願院)では、10月27日(土)から28日(日)にかけて昨年に続きオープン・コレジオが開催された。今年は昨年の倍以上の12人の参加があり、中高生や大学生、社会人が集った。

本カトリック神学院としての最後の神学院祭となった。神学生たちに話しかけて神学生たちそれぞれオリジナルの「神学生ビンゴ」など子どもたちが楽しめるプログラムが多数用意された。さらに、神学院の歴史や神学生の自己紹介、神学生ランキングなどの「展示企画」、神学院連の書籍を集めた「古本市」、「私の召命」と題して神学生、司祭、シスターが召命体験を語るシンポジウムを開催。また、福岡教区内の教会や諸団体の協力を得て様々な食品、物品の販売も行われた。

ミサ用ワイン
VINO DE MISA
スイートタイプ(赤)(白)
ご用命 お問い合わせは 有限会社 大楠酒店 ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453



11月3日(文化の日)、日本カトリック神学院福岡キャンパスにて神学院祭が開催された。「キリスト・イエスに結ばれて」のテーマのもと、約1200人が来場した。2019年度から東京・福岡キャンパスは分離・独立することが決定しているため、日

本カトリック神学院は、秋晴れの空のもとミサを祝う人々
本カトリック神学院祭は、秋晴れの空のもとミサを祝う人々
本カトリック神学院祭は、秋晴れの空のもとミサを祝う人々

【月例黙想会】
期日：①12月23日(日)17時〜24日(月)15時
②1月12日(土)17時〜13日(日)15時
指導者：染野治雄 神父(御受難修道会)
費用：8,700円(税込・指導料含む)
【ロザリオの会】
期日：毎月第1土曜日 10時〜15時
指導者：内山恵介 神父(御受難修道会)
◆黙想会の申込締切は開催の一週間前まで ◆詳細はお問合せください
カトリック御受難修道会・福岡黙想の家
811-4155 宗像市名残1056-1 Tel 0940-32-3222(9:30~16:30)
Fax 0940-32-3385 E-メール f-mokuso@fmokusou.com



別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

聖書週間 特別講座

聖書週間を一週間後に控えた11月11日(日)、大名町教会1階講堂において教区養成教化委員会内聖書講座部門主催の聖書特別講座が開催された。

この序文には韻文の箇所(1~5、10~12a、14、16節)と散文の箇所とがある。この韻文箇所には原文があり「ロゴス(ギリシャ語で“ことば”)賛歌」と呼ばれる。

さらに、ヨハネの序文は創世記の冒頭(1章1~5節)を参照しながら書き始められ、出エジプト記の最終章(40章34~36節)を考えながら締めくくられているという。

30数人という少ない参加者ではあったが、和田師は「こんなに多くの方が参加してくれた」と喜び、とても2時間では話し足りない、という内容であった。

(報告=笹丘教会 畠山真理男)

ザビエル聖堂献堂5周年

カトリック福岡黙想の家(福岡県宗像市、御受難修道会)敷地内にあるザビエル聖堂の献堂5周年が11月10日(土)に祝われた。

献堂5周年にあたり、来住英俊神父(御受難修道会)の「家族のためのキリスト教講演会」を開催。約100人が集った。

11月10日(土)、マリアの宣教者フランシスコ修道会(熊本修道院)創立120周年を祝った。宮原良治司教主司式で8人の司祭と共に感謝のミサが捧げられた。

マリアの宣教者フランシスコ修道会 熊本修道院創立120周年 共に寄り添った120年の歩み



熊本修道院での感謝のミサ

120年前の1898年10月19日、コール神父(パリ外国宣教会)からの要請に応じてマリアの宣教者フランシスコ修道会の会員5人が創立者の派遣の命(ハンセン病者の治療)を受け熊本の地に降り立ちました。

以上のような歴史をふまえて、宮原良治司教は参加者に問いかけられました。「ハンセン病の世話をされたシスター方は、当時の日本では考えられなかった常識、習慣を超えた、患者の『足を洗う』行為を続けた意味は、イエスが行ったからです。

明日からの121日目の第一歩を他者に対して確かな関わりを生きていきたいと思えます。(熊本修道院長 Sr. 入江純子)

聖コロンバン会 創立100周年 宣教精神をつなぐ



手取教会での感謝のミサ

聖コロンバン会創立100周年を記念し、手取教会で感謝ミサと祝賀会が10月20日(土)に行われ、約270人が集った。

聖コロンバン会は1918年、アイルランドで創立された男子宣教会。日本での宣教は1948年に始まり、福岡教区でも同年から熊本地区を中心に宣教司牧活動を行い、70年間で95人の司祭が福岡教区で奉仕した。

感謝ミサの主司式はマッケイ神父(人吉教会)が務めた。集会祈願では他の修道会や宣教会の名前を挙げ、「この偉大な熊本の宣教者たちの家族に加わることができたことを感謝します。

平田悠貴子さん(手取教会)が信徒を代表して挨拶。「帰天された方も含め、多くの信者が、コロンバン会の司祭との出会いを通し、癒され、救われ、生き方を変えられる体験をしたことでしょうか」と述べた。

ミサ後には聖堂にスクリーンを設置し、コロンバン会が現在、南米ペルーで行っている宣教活動の紹介が行われた。当日の献金はペルーでの宣教のために捧げられた。

聖心ウルスラ幼稚園

福岡市南区

うれしい七五三のお祝い



年長になってしっかり園児代表ができた神父様に感謝の意を表現できました!

聖心ウルスラ幼稚園では11月10日(土)に幼稚園ホールで七五三のお祝い式を行った。司式者は大楠教会の谷口尚志神父。

園児、教職員、保護者は共に、これまでの恵みに感謝し、これからもたくさんの恵みが与えられるようにと祈った。

17世紀のキリシタン殉教の伝承が残る佐賀県嬉野市不動山地区で、佐賀地区宣教師司牧評議会主催の不動山殉教者祈念祭が11月4日(日)、佐賀県嬉野市の不動ふれあい体育館にて開催された。

宮原司教はミサ説教の中で、「イエス・キリストがわたしたちのために十字架で命を捧げたこと、三日目に復活したことを、十二使徒が命を懸けて証したように、江戸時代に不動山をはじめ日本各地で殉教した人たちが自分の生きざま、自分の命を捧げてキリストの無償の愛を証しました。



祈念祭のミサで語りかける宮原司教

佐賀地区 不動山殉教者祈念祭 殉教者の模範にならって無償の愛を

人が参列した。来賓として挨拶に立った嬉野キリスト教会の藤野慶一郎牧師は、バプテスタ教会には不動山にルーツを持つ信徒や、その中には牧師になった人もいることを紹介して、偶然というより神の不思議な計らいを感じる」と語った。

宮原司教はミサ説教の中で、「イエス・キリストがわたしたちのために十字架で命を捧げたこと、三日目に復活したことを、十二使徒が命を懸けて証したように、江戸時代に不動山をはじめ日本各地で殉教した人たちが自分の生きざま、自分の命を捧げてキリストの無償の愛を証しました。

いま、この地で殉教者のために集う私たちも、彼らの模範にならって人々に無償の愛を示し、それによってキリストのあわれみといつくしみを生活の中に映させられるように祈っていきましょう」と述べた。

「21世紀は命の時代、つまり人間が人間に寄り添うことでお互いが救われるのに気がつく時代です。人間が人間に寄り添うとは、相手に対する『気配り』と『手助け』です。」(本文より)

マザー・テレサの生き方に共鳴し、在宅ホスピスのパイオニアとしてがん患者さんとともにあり続ける一臨床医。一人ひとりのいのちに寄り添う大切さを教えてくれる書。

女子パウロ会発行 税込1080円

☆イラストで知るカトリック教会生活

日々の教会の中で使用される教会用語や典礼用語、また祭儀で使用される聖具、祭服や教会の構成メンバーなどをイラストでわかりやすく紹介する。カトリックのあれこれを知りたい人から洗礼志願者、またはあらためて学びたい人まで必見の本。

サンパウロ発行 税込価格648円



☆ともにあり続けること 堂園晴彦著



不動産全般/売買・賃貸・管理 なんでもお問い合わせください (株)ジャパン・スマイルか

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション 自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。

総合建築業 一般住宅(新築・改築工事) 鉄骨工事 R.C工事 建築の事なら何でもお気軽にご相談ください 森山工務店

本との出会い 人との出会い 神との出会い セント・ポール FUKUOKA 聖心ウルスラ幼稚園

